

私たちの町、今とこれから

1年4組

●今の私たちの町

東日本大震災から約3ヶ月。しかし、今も町には瓦礫が山のようにある。「まだまだだな。」と思う反面、「3か月でよくここまで片付いたな。」という思いがある。これも自衛隊をはじめ、たくさんの方々のおかげだ。

自分が住んでいる住田町(すみたちょう)は、特に被害はなく、ほとんど震災前と変わらない生活をしている。だが、中学校には、まだ自衛隊がいるし、私が高田高校に通うには、30分のところを約1時間バスに乗らなければならない。たくさん不便なことはあるが、学校生活を送れている。

しかし、これが普通になりつつある。震災後、友達や親戚に会うと、まずは、「生きてて良かった。」と声をかけることが多い。だが普段のあいさつで「生きてて良かった。」なんて、そうそう使わない。授業中でも、少々の揺れだったら、何も思わなくなってきた。震災後、私たちの感覚は、おかしくなってきた。

この他にも、家族や友人を亡くし、深い傷を負っている人は、たくさんいる。これから、この人たちのケア、そして、生活面での支援はどうなっていくのだろうか。



・撮影日時 平成23年5月

・場所 大船渡市

・コメント 辺り一面瓦礫の山。

●これからの自分

私は、幸い被災者ではないので、たくさんの方々のために役に立ちたいと思う。しかし、どうすれば役に立てるかは全くわからない。自分に出来ることを考えたとき、「被災者から話を聞く」そして、「たくさんの人にこの事実を伝えていくことも、機会はもちろん、難しいことだが、自分にできることはこれくらいしかないと思う。私は、話を聞くのが、あまり得意な方ではない。しかし、この機会を通して、少しでも不安を取り除ければと思う。

私の家では、叔母がこの震災により亡くなってしまった。この時私は、落ち込んでいる祖母になにも声をかけてあげられなかった。それどころか、祖母の手伝いもあまりしてあげられなかった。「身内の人のケアもできないのに、他人のケアなんて・・・。」と後悔してしまい、今の状況から目を背けてきた。だが、「こんなじゃだめだ。」と思い、最近からだ、人の表情を気をつけてみるようになってきた。さらに、人の目をみてしっかり聞いてあげる。という単純なことだが、心がけている。

私には、こんなことしかできないし、できることもごく少ないと思うが、少しずつでもできることから、たくさんの方々の為やっつけていきたいと思う。



・撮影日時 平成23年5月

・場所 竹駒

・コメント 瓦礫がここまで来た。